

調査と情報

編集・発行
 (株)農林中金総合研究所基礎研究部
 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-8-3
 TEL. 03-3243-7331
 FAX. 03-3270-2233

近年、「国民参加の森づくり」がうたわれ、各地で「森林ボランティア」活動が盛んになってきている。参加者のほとんどは都市に住み、普段は林業とは無縁の生活を送っている人々である。しかし、森林ボランティア、特に自主的に取り組んできたグループの活動は、かなり年季が入ってきており、ペテラン組は村人以上に村人らしい風貌に扮し、腰にはナタやノコギリを構え、楽しみながら森づくりを行っている。そして、新人の参加者に森の大切さや森づくりの危険さ、林業の置かれている現状を教えながら、技術も教えてくれる。みんなでワイワイ騒ぎながら、刃物を扱うスリルもあって、「大人のいいあそび」という感じだ。森林ボランティア活動は現在人に合った「森林学習機会」となっている。

森林所有者が森に戻れる対策を

こうした都市からの森への熱いアプローチとは裏腹に、森林所有者の「林業はなれ」森はなれ」が進んでいる。真面目に森づくりに励んできた所有者(林家)の多くは、高齢化とともにリタイアがめだち、今日はあまり林業の経験をもたない次世代・後継者への交代期にあり、加えて経済的価値が大幅に低下した人工林を前に所有者は森の手入れへの意欲を大きく喪失してきた。

いくら周りが「森に手入れを」と訴えても、所有者の意欲が湧かない限りどうしようもない。さらに所有者側としても経済的価値を生み出さない限り、森林に手を付けようがない。コスト削減が難しい現状の中で森林所有者を責めるだけでは問

題は解決しない。その解決のためには、失われてきた森林所有者の森林への意欲を復活させる、あるいは新世代にとっては興味を湧かせる方法をまず考えなくてはいけないだろう。

その方法の一つとして、森林所有者と他者との連携あるいは森林所有者同士の協力を深めることがあげられる。連携により知恵を出し合い、自分たちが林業を行える条件を見つけ、それを世の中にアピールすることができる。

例えば、市民と森林組合が共同で森林保全活動を行っている静岡県清水市の「清水みどり情報局」では、「市民がこれからの林業の応援団である」との認識から、山と街の両方が関心を持つ「水保全」を取り上げ、林業技術の伝授を通じた運動を広げている。また林業地として有名な天竜地域では、それぞれが個別で雇用したり他に委託しては採算が合わないとして、四〇歳の森林所有者五、六人が集まってグループを作り、共同で作業を行い始めている。さらに、東京都多摩地域の「東京の木で家を作る会」では、林業家、建築関係者、都市住民等が加わって、家を軸に林業から施工までをトータルに考える会を開催している。実際に三十軒程度の家を地元材を使って建て、木材について考えるユーザーを創り出している。

森林や林業の現状を森林所有者から世の中にアピールすることが必要であり、その前提となる森林所有者自身の森への興味を復活させる方法が、今課題となっている。(研究員 栗栖祐子)

も	森林所有者が森に戻れる対策を……………1	ぶっくレビュー	
く	農業の担い手像と農業生産法人……………2	『有機農業ハンドブック』……………9	
じ	曲がり角にきた花の生産……………3~4	あぜみち……………10	
	鹿沼市農業公社の高効率な農業生産システム…5~6	虹のかけ橋……………11	
	地域農業の担い手「農おくがの村」…7~8	統計の眼「拡大する海外産業植林」……………12	
		編集後記……………12	